

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第10回高士区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

- ・上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応（案）について

(2) 自主的な審議（公開）

- ・自主的審議事項について

3 開催日時

令和8年3月16日（月）午後6時45分から午後8時2分まで

4 開催場所

高士地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員：上野副会長、上野(美)委員、塩尻委員、高橋会長、田中委員、
塚田(幸)委員、塚田(誠)委員、馬場委員、日向副会長、山口委員、
山本委員（欠席1名）
- ・資産活用課：丸山係長、長ヶ部主事
- ・事務局：中部まちづくりセンター 井守所長、村山副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・挨拶

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【高橋会長】

- ・会議録の確認：山本委員に依頼
次第3 議題「(1) 報告事項」の「上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応(案)について」に入る。本件の担当課である資産活用課へ説明を求める。

【資産活用課 丸山係長】

- ・挨拶
- ・資料No.1-1、No.1-2、No.1-3に基づき説明

【高橋会長】

ただ今の説明について、質問、意見はあるか。

【塚田(誠)委員】

北方の高土地区多目的研修センターも入るのか。

【資産活用課 丸山係長】

資料No.1-3、3 ページに記載されている。

【塚田(誠)委員】

イベントの際に利用するが、トイレがいつも詰まってしまう。原因は、配管が細くて流れにくいとのことだが、改善できないか。

【資産活用課 丸山係長】

市の財政状況が苦しいことと施設の維持管理経費が高騰しており、先ほど説明した取組を進めて修繕費用を捻出し、トイレの詰まりをなくすなど、問題なく使用できる状態にしたいと考えている。その点について、皆様のご理解をいただきながら、一緒に考えて取組を進めていければと思う。ただ、いただいた個別具体的な内容は、担当部署に伝えて対応する。

【高橋会長】

他に質問、意見はあるか。

(発言無し)

以上で次第3 議題「(1) 報告事項」の「上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応(案)について」を終了する。

・資産活用課退席

次第3 議題「(2) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。

本日は、自主的審議事項について、3つの事項を協議する。1つ目は自主的審議事項で取り組む課題(テーマ)名、2つ目はスローガンの提案、そして3つ目が具体的な解決策の実施方法である。

まず、「自主的審議事項で取り組む課題(テーマ)名」について、事務局へ説明を求める。

【鈴木主事】

・資料2 [自主的審議事項で取り組む課題(テーマ)名] に基づき説明

【高橋会長】

ただ今の説明について、質問、意見はあるか。

(発言無し)

では、自主的審議のテーマ名について、提案のあった「コミュニティの維持」としてよいか。

(よしの声)

続いて、「スローガン」の提案について、事務局へ説明を求める。

【鈴木主事】

・資料2 [スローガンの提案] に基づき説明

【高橋会長】

ただ今の説明について、質問はあるか。

(発言無し)

スローガンについて、文言の修正等があれば、発言願う。

(発言無し)

今の説明内容は、これからの活動で非常に重要になると考える。資料2は前回の意見をまとめたものだが、解決策、実施方法、スローガンなどを考慮して、改めて皆さんの意見を伺いたい。

【山口委員】

私の町内で、一番人が集まりやすいのは「いいだまつり」。若い方から高齢者まで、多様な世代が集まる。各団体で高士地区公民館を使っているが、違う年齢層の人が集まることは、今はあまりない。これからそういう機会が作れればと考える。

【馬場委員】

私はスローガンとして、案3「誰もがかけがえのない時間を過ごせる高士」が素晴らしいと思う。実施方法も前回の協議内容がまとめられているので、これをより具体的に進めていければと思う。

【塚田(誠)委員】

私もスローガンは案3が良いと思う。また、居場所はあるが、一気に地区公民館に集約するのではなく、各町内会館から取り組む方が集まりやすいのではないかと。

私の町内では小さな祭りをやっていて、子供から高齢者まで集まれる良い面もあるが、話をするだけで終わっており、以前から開催方法に改善の余地があると感じていた。祭りで子供たちに、おやつを配るようなイベントを町内の班で行うのも面白い。また、競技会のようなイベントを提案したいが、まだまとまっていない。

【高橋会長】

町内規模での活動ということか。

【塚田(誠)委員】

まずは町内規模で開催し、少しずつ地域全体に進めていければと思う。

【塚田(幸)委員】

私の町内では、人が集まる機会が全くない。農作業の江さらいをして、途中でお茶を一本配るだけで、慰労会のような飲み会もコロナ禍以降は全くなく、新年会すら開かない。近所での会話もなく、何をしている人たちなのかも分からない。飲み会をしたいというより、たまに会って気軽に話したいのだが、そういう機会が全くない。先輩たちに声をかけて何とかしようとはしているが、現状は上手くいかない。

【田中委員】

私の町内も同じで、人が集まる機会が何もない。町内での活動もそうだが、以前は役員会の後に少し飲みながら話をしていたが、今では「缶ビール1本、持って帰って」と言われ、一緒に飲んで談笑することもなくなった。先週行われたボッチャも、私の町内からは誰も参加しなかった。そこが今、本当に難しいところで、どうしたら参加してもらえるのか、一個人の力だけでは難しい。

スローガンは案1が良い。

【塩尻委員】

具体的な解決策がコンパクトにまとまっている。この解決策を見ると一目瞭然で、人

と会える場所、居場所と気軽なきっかけが重要である。きっかけがあれば何とかなるが、そのきっかけをどう作るか。私の町内では、5月に子供会でひまわりを植えたり、夏に子供会や婦人会で納涼会を開いたり、ホテルの鑑賞会を行ったりと、さまざまなイベントを開催して、子供たちに思い出を作ってもらおうと考えている。少し足りないところもあるが、住民が集まるきっかけをどう広げられるかだと思う。

スローガンは、案2が良いと思う。

【上野(美)委員】

前回の委員の多くの発言内容が、正確に記載されていて、とても分かりやすくまとめである。スローガン案が3つとも「たかし」にかかっている、考えるのが大変だったと思う。どれも良いが、案1が良いと思う。

先月、高士ルミネのイベントが終わり、感じていることがある。私の子供たちは県外に出ているが、準備や手伝いのために、今回も東京や大阪から帰ってきた。小学校の時から手伝いで活動に参加していて、友達にも会えて楽しいので、ルミネのために帰ってくる。それが小さい頃からの思い出になっていて、そういうのは大事だと思う。先ほどのホテル観賞もそうだと思うが、小さい頃から楽しいと思っていたことがきっかけで、帰省だけではなく、地元で就職したいという気持ちにつながると思う。小さなことの積み重ねや長く続けることが大事で、それがいずれ子供たちに伝わり、高士区を思う気持ちや懐かしむ気持ちにつながっていくと感じた。

【日向副会長】

スローガンについては、3つとも良いが、やはり何か1つに決めた方が良いと思う。私は案1が良いと考えている。

コミュニティについては、先ほどの発言にあるようにきっかけが大事で、東京で働いている私の子供やその友達も、ファミリー綱引大会のために帰省し参加した。既に次回のファミリー綱引大会に向けて子供たちがトレーニングをしている。やはり、きっかけは大事だと思っている。何かに向かうという子供たちの気持ちを大切にしたいし、参加してくれている小学生たちの気持ちも大切にしたいと常々思っている、小さなことでもいいので、改まって始めるよりも行事に付随して始めるのがいいと思う。

私の住んでいる稲谷町内会は行事が多く、これをきっかけに町内の行事をもっと大事にし、そこから隣の町内へ広がっていけるように頑張っていきたい。

【高橋会長】

さまざまな行事がある中で、行事に参加している方にとって、その場が居場所的な形になっているのではないかと。参加しない方や参加できない方は、交通手段がないなどの理由で参加できず、孤立しているのではないかと。まずは、参加しない方、参加できない方に、居場所的な形で参加してもらえるにはどうすればいいのか考えたい。

前回、塩尻委員からベンチの活用の話があった。あれは何か行事の準備をするといった問題ではなく、ただそこに集まってくれる。椅子一つ、ベンチ一つで集まってもらえれば、そこで会話が始まり、さまざまな話題や近所の出来事を話してもらえるようになれば、素晴らしい居場所になるのではないかと。

前回の塚田(誠)委員からの野菜の無料配布のような取組や、趣味を起点に輪を広げていくことが居場所につながる迅速な解決策だと感じる。

スローガンは案1と案2がニュアンス的に似ているので、案2を「身近な場所でみんなが楽しめ、自然と笑顔が広がる高士」に変更することを提案する。

【上野副会長】

資料2の記載内容がまとまっており、非常に分かりやすい。きっかけが一番大事だと思うが、何をきっかけにするのか、それをどのように楽しく参加できるようにするのが重要だと思う。楽しくなければ参加しない。

先ほどファミリー綱引大会やボッチャ大会の話があったが、あの時は、地域の皆さんと交流するための仕掛けとして、カレー作りをした。苦労はするが、食べるのが非常に楽しく、美味しかったと話していた。参加者に楽しんでもらえる仕掛けも大事だと思う。そういうところをきちんと組み合わせていけば、参加者も楽しめるのではないかと。

スローガンについては、私は案2が良いと思うが、会長提案の「身近な場所」などの文言を入れても良いと思う。

【山本委員】

資料2がとても分かりやすく整理されている。スローガンは案1が良いと思うが、先ほどの会長の案も検討してはどうか。人と会うきっかけづくり、皆と一緒に何かを始めることが大事だと思う。今は皆で何かできることはない。小学校の体育館で何ができるだろうかと話を聞きながら想像していたが、それにはお金も必要で、そういう点も考えつつ、できたらと思う。

【山口委員】

スローガンは、案3の「誰もがかけがえのない時間を過ごせる高士」が良いと思う。

何でもきっかけを作るのは難しい。

【高橋会長】

さまざまな意見が出たが、この内容を踏まえながらスローガンを決定したいが、どのような形で決めたら良いか。

【馬場委員】

スローガンはポイントだけ押さえれば、短い方が良い。

【高橋会長】

3つにするか1つにするか、2つにするかについて、意見はあるか。

【上野副会長】

1つにし、短くて分かりやすい方が良い。

【高橋会長】

1つにし、文言を短く簡潔にするという意見。資料2の「押さえないポイント」を活用してはどうか。

【渡邊係長】

言葉の意味としては、案1は「たくさんの出会いから関係を育む」ということで、新しい出会い、高土の中でも初めて会う人や、嫁いで来た人など、新しい関係性についての内容。案2は「大切な人と」ということで、久しぶりの人や、綱引のために帰省される人なども含めた意味。案3は毛色が少し違う感じでニュアンスも異なるため、テーマの観点から、どんなコミュニティを維持したいかを含めても良いのではないか。

【上野(美)委員】

案3は特定の人ではなく、誰もがという意味では、より広い範囲ともいえる。

【高橋会長】

スローガンは1つで短く表現する。事務局が考えた「たかし」を大事にする。以上をポイントに各自で考え、次回の協議会で発表してもらおう。近い言葉やニュアンスは協議し決定する。本日、スローガンを決定し、次に進む予定だったが、スローガンの決定は次回に持ち越す。

最後に、「具体的な解決策の実施方法」について、事務局へ説明を求める。

【鈴木主事】

- ・資料2 [具体的な解決策の実施方法] に基づき説明

【高橋会長】

ただ今の説明について、質問、意見はあるか。

町内会館を拠点にスタートする案を挙げた方も数名いた。一方で、事務局から、まず地区公民館から始め、情報を集めつつ、町内での実施が可能であればそこを拠点にするという流れで、公民館の開放から進めるという提案である。

【馬場委員】

公民館活動はいくつかあるが、結局同じ人がいつも参加している。ファミリー綱引は若い人たちだと思う。そうすると、何か方法を考えないと人は集まらない。

逆に、町内会館で茶話会のような催し物を企画して、皆さんが集まりやすくすることから始めてはどうか。

【塚田(誠)委員】

公民館のサロンは同じ人しか来なくなっているの、新しく開拓するのは難しい。例えば、体育祭や小学校の文化祭のような大きなイベントには、確実に人が集まるので、そのタイミングで公民館を開放し、暑いときは中で涼みながら、気軽に話すきっかけを作る。大勢の人が集まるときに開放してはどうか。

【上野副会長】

先ほどの意見のとおり、公民館で新しい事業を開催しても同じ人しか集まらないので、イベントの後に公民館を利用すればいいのではないかと。高士区には大きな行事として、高士ルミネ、敬老会、体育大会、高士まつり、ファミリー綱引大会がある。その他に何か行事があったときに、町内会館やこの公民館を利用すればいいのではないかと。

新しい事業を企画しても集まらないのが現状で、本当に楽しくなければ集まらない。昨年度、日本海ウォークを三和区と合同で実施した。高士区から11人、三和区から9人が参加した。新しいことを始めるとなると、人集めが非常に難しい。また、子供たちは塾などがあり、集まりにくいという事情もある。したがって、よほどの仕掛けがないと集まらない。特に、コロナ禍が原因で中止したものを復活させるのは、相当な努力と地域の皆さんの理解がないとできない。公民館活動は来年度もいろいろ開催するが、確かに仕掛けをしなければ集まらない。ましてや有線放送がなくなり、その都度連絡できていたものがなくなり、チラシのみになっているので、回覧で回って終わってしまう。まさにコミュニティとして皆さんが伝えていければと思う。ポッチャ大会、ファミリー綱引大会のときも知らなかった人が多い。先ほどの話で、子供たちが帰省して参加しているのは、直接伝えるからだと思う。やはり、きっかけづくりとして口伝えをすることが

大事であり、仕掛けづくりと共に進めていかなければならない。私も今年で公民館に関わって10年目になる。マンネリ化にならないよう、新しい気持ちでやるよう努力する。

【高橋会長】

公民館と町内会館について2つの意見があった。

挙手にて採決を取る。

公民館の開放に賛成の委員は挙手願う。

(3人挙手)

町内会館の開放に賛成の委員は挙手願う。

(8人挙手)

挙手の結果、町内会館の開放に決定する。

では、まずは「町内会館の開放」に着手することとし、実施しながら、高土区の皆さんが参加しやすい居場所づくりを検討していく。

次回以降は、実施に当たり必要な事項について、検討していくこととする。

以上で、次第3 議題「(2) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第4 その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【村山副所長】

・次回の協議会について説明

— 日程調整 —

・次回の地域協議会：4月16日（木）午後6時30分から
高土地区公民館 大会議室（予定）

【高橋会長】

以上で次第4 その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第4 その他「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

【鈴木主事】

・地域協議会だより（配布方法、用紙）の変更について

・協議会当日の欠席連絡の方法について

【井守所長】

・来年度の事務局の体制について報告

【高橋会長】

他に何かあるか

(発言無し)

【上野副会長】

・閉会の挨拶

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。